

平成21年度事務事業評価シート (20年度実施事業分)

事業番号		05 06 03	中期総合計画主要施策番号		3-13	担当課	部・課	衛生部・薬事管理課	
事業名		薬物乱用対策事業					内線	2674	
							E-mail	yakuji@pref.nagano.jp	
事業の概要等	事業の目的	覚せい剤等の薬物乱用を防止するため、県民に薬物乱用がもたらす健康被害と社会に与える重大な弊害を周知し、薬物乱用防止意識の高揚を図り、薬物乱用のない社会環境づくりを推進する。							
	事業の必要性	[現状(事業の目的との間にどのようなギャップがあるか)] 薬物乱用は依然として後をたたない。県内でもMDMAなど新たな薬物の検挙者が出てきている。							
		[原因分析(ギャップが発生している原因は何か)] インターネットの普及により、様々な情報が入手出来る中で、薬物乱用の危険性に対する認識が欠如している。携帯電話を使った密売の手法が巧妙化、若者のファッション感覚による乱用急増、向精神薬や違法ドラッグなど乱用薬物が多様化してきている。							
		[課題の特定(事業の実施により解決しようとする課題は何か)] 正しい知識を、特に若い世代に対し広めることで、薬物乱用の拡大防止に努める。							
	事業内容	県薬物乱用対策推進協議会及び地区協議会による啓発活動 若い世代への「薬物乱用防止」意識啓発事業 薬物乱用防止指導員の活動							
実施期間	S22 ~	根拠法令等		麻薬及び向精神薬取締法、薬物乱用防止新五カ年戦略等					
成果と達成状況	事業の目指す成果		達成度(期待どおり)の判定基準(H20)			達成状況		評価	
	薬物乱用防止に関する知識の啓発を図り、覚せい剤等の乱用者を減少させる。		「薬物乱用防止」意識啓発事業として中・高校20校で講演会を開催する。また、指導員による啓発活動や、街頭キャンペーンを実施する。			「薬物乱用防止」意識啓発事業として中・高校20校で講演会を開催した。また、指導員による啓発活動や街頭キャンペーンを実施し啓発活動を行った。薬物乱用対策協議会を通じ各関係機関で連携をしながら啓発を行っている。		a.期待以上 b.期待どおり c.やや下回る d.期待以下	
事業コスト	区 分		単位	19年度	20年度	21年度(当初)	20年度の概要		
	最終予算額 (A)		千円	3,500	3,214	3,041	国庫・県単	県単	
	決 算 額 (B)		千円	3,032	2,762		実施方法	直接・委託	
	B(H21はA)のうち一般財源		千円				歳出節別		
	概 算 人件費	従事する職員数	人	1.70	1.70	1.70	内訳等	報償費: 1,066 委託料: 504 役務費: 410	
	概算事業費 (B(H21はA) + C)		千円	15,170	14,915	15,194	(単位: 千円)		
事業実績	内 容		単位	19年度	20年度	21年度(予定)	左記以外の20年度の実績		
	「薬物乱用防止」意識啓発事業実施校		校	40	20	20	「薬物乱用防止」意識啓発事業実施校の生徒や教師から、乱用経験者の生の声は非常にインパクトがあり、薬物乱用の恐ろしさを思い知らされたなど、非常に参考になったとの意見が多く寄せられている。		
	ヤング街頭キャンペーン実施ヶ所数		ヶ所	13	17	17			
	薬物乱用相談の相談件数		回数	114	108	110			
事業の課題	区 分		判 定 ・ 説 明						
	事業のニーズの変化		増加	横ばい	減少	判定の説明	薬物乱用は現在、世界各国が直面している深刻な問題である。大麻、向精神薬、違法ドラッグ、ライターのカス等乱用薬物が多様化していること、携帯電話等による売買等で手法が巧妙化している。県では教育委員会、県警本部、薬剤師会等の関係機関、関係団体と連携をとりながら引き続き事業を進めていく必要がある。		
	県の関与を見直す余地		余地なし	当面余地なし	余地あり				
	有効性を高める余地		余地なし	当面余地なし	余地あり				
	効率性を高める余地		余地なし	当面余地なし	余地あり				
課題の総括		若い世代への「薬物乱用防止」意識啓発事業(中・高校生への正しい知識普及を図るため薬物乱用体験者の体験談を直接聞き、若い世代の薬物乱用防止意識の高揚を図る)は、実施を希望する学校が多く、希望校全てで講演を行うことができなかった。 インターネット等で容易に薬物が入手できる状況や、乱用薬物の売買が悪質巧妙化し乱用者の低年齢化が懸念される状況の中、引き続き若者を中心に啓発活動を推進していく必要がある。							